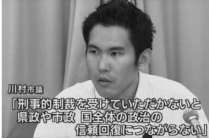


2015年の初当選以来、既成政党には出来ない無所属の強みを活かして、活動してきました。文教都市とサッカーの街である浦和の誇り、市民生活を豊かにして日本経済の復活に繋げる成長戦略、健康は食と農から実践するための有機農業の推進など、様々な取り組みを進めてきました。

**腐敗と不正の根絶を目指し
クリーンな議会改革へ挑戦**

●自民党・沢田県議を刑事告発し、書類送検へ追い込む



2017年7月に発覚した沢田力・埼玉県議の政務活動費の不正受給。沢田氏は不正が発覚するとすぐ議員辞職しましたが、刑事的制裁から逃がすわけにはいきません。沢田氏を刑事告発し書類送検しました。

●議員と市長の報酬増を問題視

私は当選した2015年以来、民間経済の動向が回復していない状況での議員や市長の報酬増に強く反対してきました。特に2020年のコロナ禍以降、民間経済と乖離した政治家の報酬増を厳しく非難してきました。

●政務活動費の透明化に向け改革案を複数提出

2017年に政務活動費の領収書のインターネット公開を市議会で決定させました。また、埼玉県議会にも請願を出すことで、2020年度から県議会も政務活動費の領収書に関し、インターネット公開を実現しました。

その他にも、成果書のインターネット公開や政務活動費の後払い制度の変更など、さらなる政務活動費の透明化を提案しています。

●海外視察の予算を半分に圧縮

議員が議会の代表としていく海外視察に関して、議会での質疑・討論の導入を実現しました。結果、質疑や討論の制度導入前の2011年から2015年の4年間は海外視察費が約1400万円だったのが、2015年から2019年は約700万円以下になるなど厳格化に繋がりました。

無所属

川村準の

●議員年金の復活を阻止

2011年に廃止された議員特権の一つである議員年金。しかし、2016年に自民、民進系（当時）、公明が議員年金の衣替えと考えられる「政府管掌年金」の創設を呼びかけてきました。私は「偉い議員の先生」のための特別な年金制度「政府管掌年金」の不相当さを議会で追及し、その結果、復活を阻止しました。

●少数派議員の発言時間増加を実現

2015年の当選直後は、無所属議員の質疑時間は2分、討論時間は3分とわずかでした。市民の署名の効果もあり質疑時間は2倍の4分、討論時間も2・5倍以上の8分に拡大し市議会での議論を活発に出来ました。



●選挙公報をネットに常時公開

選挙公報が、選挙の時だけインターネット上に公開され選挙後はネットから消されていました。これでは、選挙の時だけ耳ざわりのいい公約を掲げ、その後は公約を破る政治家が誕生する土壌になると考え選挙管理委員会を徹底追及。結果、2017年から選挙後もネット上に選挙公報が残り市民が常に政治家の公約を確認できる体制が整いました。

●市長や議長の公用車ルール策定を

2016年に舛添要一・東京都知事（当時）は、公用車で湯河原へ行ったことなどが問題視され辞職しました。さいたま市でも市長や議長の公用車ルール厳格化を求めました。

●監査委員の天下りシステムと議員特権を議会で大暴露

市の財務会計を監視する監査委員。4人いる監査委員のうち、1人は古巣にどこまでモノ申せるか分からない市職員の出身。2人は監査委員の報酬をむさぼる議員の指定席になっており、

問題点を鋭く指摘しました。

●市議会だよりやホームページで採決賛否を掲載し透明化を提案

議員の採決態度は市議会だよりに掲載せず、ホームページも請願の採決態度は公開されていません。議員の採決態度を非公開にすることは、議会のなれ合いの温床になります。

●統一教会系への不適切な支出のある議員に監査請求し、返金を実現

●新型コロナ対策専用の委員会の設置を要求

●議長の所信表明演説を記録の残る本会議での実施を提案

●緑区と桜区の「一票の格差」是正を実現

●市役所の主要ポストに国家公務員が就くことの弊害を指摘

「文教都市浦和」の発展を目指し

●自動車の「浦和ナンバー」創設目指して署名運動

埼玉県内の主要エリアは「浦和」以外は全て自動車ナンバーを持っています。浦和エリアの愛着向上や文教都市・浦和のブランド化のためにも「浦和ナンバー」創設の署名を集め、市へ思いをぶつけました。



●有機農業の推進を主張し、オーガニックフェスを開催

地球環境の問題や人間の健康を考えると、今後、有機農業の推進が求められます。有機推進の質問を本会議で初めて行い、結果、市は2022年11月に、浦和駅東口で行なわれた「オーガニックフェス」の協催に名を連ねました。



●遺伝子組み換えやゲノム編集食品の表示について義務付けを強く主張

新しい技術で安全性が未確定な遺伝子組み換えやゲ

ノム編集は、EU等諸外国と異なり、日本は表示義務が不十分です。消費者の知る権利を保障するために、表示義務の徹底を訴えました。

●学校が遺伝子組み換えの実験台になるのを阻止

ゲノム編集開発企業が、教育現場にゲノム編集で出来たトマト苗を配布する事業を進めていましたが、市の教育委員会に「受け取らない」と約束させました。

●図書館の休日の開館時間の延長を提案

現在、南浦和図書館と武蔵浦和図書館は休日が夜6時までしか開館していません。他市とのデータも比較して夜間も図書館を開館することを提案し、調査・検討を行うことになりました。

●鉄道駅の返却ポスト増設を提言

現在、東浦和駅、宮原駅、西浦和駅に設置されている図書館の返却ポスト。南区の駅にも返却ポスト設置を要望しました。



●学生の自習場所が少ない問題を取り上げ、教育委員会が調査を約束

●鉄道駅のホームドアの早期設置を南浦和駅で実現

●市立病院の差額ベッドの割合増に警鐘を鳴らす、誰もが安心して医療を受けられる環境の実現を

●最新技術をみんなで学習！EV教室の開催校を現状の5%から大幅増を実現

●浦和ブランド化「レッズ」の町名地区を提案

**住み続けたい街
"南区"を目指し**

●武蔵浦和駅で分煙対策の前進を実現

2018年12月に南浦和駅西口の喫煙場所にタバコの煙を分散しないようにするパーティションが設置されました。同じように、武蔵浦和駅にパーティションの設置を



情熱と実績

現することを市へ求め、2021年にパーティションの設置を武蔵浦和駅でも実現しました。

●ドクターカーの24時間運用を提案

医師や看護師が乗る救急車「ドクターカー」。市内に3台整備されているものの、平日の日中しか稼働しません。しかし、



需要は休日や夜間が多いのが、実態です。24時間運用を実現するよう提案しました。

●マンホールに広告の募集で市の財源拡充を提言

●内谷中や沼影小のマンモス校問題を徹底追及
●給食費の値上げを一部阻止



●熱中症対策の一環として、リュックサック登校を認めさせる

●コロナ禍でも、交通安全教室を徹底するため、啓発動画の充実を要望

●道路や信号等の草刈りを行い、安全な街づくりを推進

●大阪などで進む水道「民営化」の危険性を指摘

●人口集中地区・武蔵浦和エリアの避難場所の設置を要望

●出産できる産婦人科医を、南区に誘致を強く要望

●防災放送の24時間運用体制の改善を実現

パパ、ママ、子どもの笑顔 目指し保育園など改革

●私立保育園の全園監査を実現

さいたま市は、保育園の数や受け入れ人数など「保育の量」が増加し、待機児童数が減ったものの「保育の質」が懸念事項です。

市が私立・認可保育園を実地監査しておらず「保育の質」が問題状態にあることを知った私は、安心安全な環境を目指して議会で全園監査を提案、2018年

度から実現しました。

●保育園・幼稚園の専門の監査部門の創設に向けて

さいたま市以外の19政令市は、保育関係専門の監査部門を持っています。さいたま市も「保育の質」向上のため、保育専門の監査部局の創設を提案し、実現に向け市を後押ししています。

●保育園のオムツ持ち帰りを解消

公立保育園では、保護者が使用済みのオムツを持ち帰るのがルールでした。しかし、衛生面や保護者の負担軽減の観点から改善が必要と考え議会で初めて市に提案し、2020年度から実現しました。

●公立保育園の土曜時間の延長を

公立・認可保育園の土曜の開館時間は7時半から14時半までと非常に短くなっています。10年前からこの問題が指摘されているものの、改善に動いていない事実を暴露し素早い改善を求めました。



●妊婦加算の凍結に向け、市議会・県議会で行動

妊婦の診療にはきめ細かさが求められるとし、2018年4月に妊婦加算が導入されました。しかし、加算の負担先が妊婦はおかしいと、私は市議会と県議会にて請願で行動。県議会では全会一致で趣旨採択され結果、2018年12月に妊婦加算は事実上の廃止になりました。

●中学生まで無償の医療費について、高校生まで延長を要求

現在は中学生まで医療費は無償ですが、これを高校生まで延長すべきです。年間7・5億円の予算は、箱物や大規模イベントの廃止・中止で捻出出来ます。

●公立保育園の監査が10年放置の現状を暴露

●所得に応じた保育料提言

●養育費の受け取り向上策を提案

●楽しみながら身守る。防災カードゲームを幼稚園へ

●縦割り行政にメス！ヒヤリハット・マップの規格を統一し、より良い地図へ

●コロナのワクチンの予約電話を有料から無料に

●梅毒が急増の中、性病検査の再開を実現

●新生児の聴覚検査の補助を実現

●公立保育園を半分にする市の方針に警鐘を鳴らす

お役所の無駄遣いを容赦なく追及

●市職員と民間給与の較差を暴露

さいたま市職員の給与は、昨年12月も増えました。しかし、市職員の平均給与は概算で約700万円。一方、民間の平均給与は約443万円(2021年)と300万円もの給与較差があります。市職員は公務員で基本的にクビにもされず身分が安定していることから給与を300万円下げ民間較差を解消するとともに、その較差を解消してできる財源で、市民のために税金を使うことを提言しています。

●国際芸術祭の問題を指摘

市長の趣味的に開始した芸術祭「トリエンナーレ」と「国際芸術祭」。担当職員の人件費含め累計で約10億円もの税金を投じて開催したものの、その内容は日本全国の自治体で芸術祭を行うのが流行っているから開催するという二番煎じであり、真っ向から反対しました。



●市長の趣味「クリテリウム」の中止を強く主張

●盆栽美術館の運営体制の問題の指摘と改善策を一緒に提案

●地下鉄7号線(埼玉高速鉄道)の延伸

が市の財政に与える悪影響を指摘



等々・・・

川村準プロフィール

1987(昭和62)年11月生まれの35歳。

旧・浦和市中で幼少から育ち浦和東部の大牧小学校、尾間木中学校卒。

都内の順天高校を卒業後、米国はオクラホマ州のノースイースタン州立大学を2011年に卒業後、新聞社で記者として働く。

社会人生活の傍ら、学生時代から関心のあった政治に関して、さいたま市政を調べ様々な問題を発見する。

また、そういった問題に関して、しっかり浦和で追及する議員がいないことに疑問を感じ始める。

それならば自分が、そういった議員になるとの決意で2015年の市議選に出馬し当選。現在は2期目。

当選後は、定期的に、記者出身のジャーナリスト視点を活かし市政レポートを市民の皆様へ配布。

尊敬する政治家は、戦後日本の高度経済成長を成し遂げた「所得倍增計画」で有名な池田勇人・内閣総理大臣。

趣味は読書と音楽鑑賞。好きな作家は司馬遼太郎、山本七平、小室直樹など。好きなミュージシャンはブルーハーツ、エルレガーデンなど。

政務活動費使用せずも 発言回数ダントツ

政務活動費は、議員報酬とは別に、政務・議員活動に用いることの出来る議員の「第二の報酬」です。

2014年の野々村竜太郎・元兵庫県議の「号泣会見」はじめ、富山市議会での大量の政務活動費の不正、2017年の沢田力・元埼玉県議の不正受給など政務活動費は「不正の温床」となってきました。

さいたま市議会議員の年間報酬は約1355万円です。

この年間報酬を皆様からの貴重な税金でいただけるのであれば、政務活動費は不要!ということで、私は年間報酬のみで議員活動を行い、これまで8年間レポートを配布してきました。

また、本会議での発言回数も政務活動費を受給0円の私が、南区でトップの135回ほど発言してきました(2015~2021年度)。

それらに加えて、政務活動費を受け取っていないからこそ8年間、政務活動費の改革案を中立公平な視点で提案できました。

政務活動費の使用額と発言回数(2015~21年度)

南区の議員	党派	政務活動費の使用額	発言回数
雷田かおり	民主改革	2501万1733円	16回
萩原章弘	自民	2450万9538円	5回
浜口健司	民主改革	2422万7363円	16回
金子昭代	共産	2415万5786円	25回
松下社一	公明	2262万8553円	6回
土井裕之	民主改革	2258万4333円	20回
野口吉明	自民	2147万3220円	6回
橋本大輔	自民	2080万3493円	3回
川村準	無所属	0円	135回

※各議員は公費支出の人数別と個人支出の合計。形見合算は21年当時。発言は本会議での発言。質問、質疑、総議、議事進行の合計。金子は、2015-18年度は守谷千洋子(共産)との合算。政務活動費の使用額は、2015年10月分から。